

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472100508		
法人名	株式会社 SHINEI		
事業所名	なでしこの家		
所在地	三重県員弁郡東員町穴太大字大谷2578-4		
自己評価作成日	平成25年1月11日	評価結果市町提出日	平成 25 年 3 月 25 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2012_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2472100508-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2012_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2472100508-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 25 年 1 月 24 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家人さんが自分らしく安心して過ごしていけるホーム作りを大切にしています。職員が日頃から、自分だったらどうだろうと自分に置き換えて、家人さんの思い等に十分に耳を傾けてケアにあたっている。又、日頃から家人さんと一緒に家事を行なえるよう働き掛け、ノビノビと楽しく毎日を送れるようホーム自体が家人さんの家というホーム作りを目指している。毎年、記載していますが四季折々の行事も大切にし、家人さんと準備をしたりしています。年に一度の大切な誕生日ではドレスを着ていただいたりし、特別な1日になるように担当スタッフが前もって企画書を作成し、皆でお祝いをしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地域でなく山の中を感じさせる環境の中にあるが、一歩建物の中に入ると、職員や利用者の沢山の「笑顔」(理念で大切にしている)に迎えられ、温かさを感じる事業所である。全てのことに利用者を第一に考え、出来ることを手伝ってもらい、参加をしてもらう姿勢であり、常に利用者の意見を聞きながら物事を進めている。アットホームな感じがする上、職員もよくまとまっていると思われる。町の広報誌に事業所のPR資料を掲載してもらったり、事業所の見学先に指定されたりと、行政との連携も取れて来ている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の「みんなの笑顔はみんなの命のお薬です」を職員一同大切にし、日常生活において家人さんの意思を尊重し、不安要素なく笑顔で平穩に過ごしていただけるようなケアを大切にしている。	理念の「笑顔」を大切にしており、利用者の心からの笑顔を引き出すよう、会議の席や日頃の生活の中で職員同士が注意し、確認しあっている。利用者を家人と呼び、利用者にとって自分の家であるように支えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣に住居が少ない場所で、なかなか地域の方と関わる機会が少ないが、町運営の資源ゴミ収集場に家人さんと捨てに行ったりしている。	近隣に住居がないので、保育園の子ども達やボランティアに来てもらったり、事業所の催物に招待する等の努力をしている。また町の催物にも出かけることが多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	専門学校等の実習の受け入れだけでなく、地域住民の方の施設見学・訪問の機会を市町村が設けて下さり、認知症に対する理解を高めていけるよう努めた。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の外部評価で年間行事を通して、地域の代表の方や民生委員さんにも参加をして頂き、運営推進会議を進めていきたいと目標を立てましたが、今年度も運営推進会議を開催する事が出来ませんでした。	地域の方や民生委員の方々との係わり合いが出来ておらず、開催に至ってない。	事業所の催物や勉強会の日に合わせて開催する等、気軽な開催を工夫されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	併設の居宅介護支援事業所と通所介護をしている事もあり、日々、市町村との行き来する機会がある。又、毎月発行のなでしこ便りを市町村へ届けている。	認定更新や空き情報で出向いたり、町の方からは見学の要請があったり、広報誌に事業所のことを掲載していただいたり、と連携は取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等で日頃のケアについての振り返りが出来るよう、時折、身体拘束についての勉強会を行っている。又、日頃からスタッフ間でも意見交換を大切にしている。	相手の身に自分を置き換えて考え、拘束より寄添うことを基本としている。また毎月の会議でもスタッフ同士がばいあうのではなく、指摘し合うように勉強している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	6の項目同様、ミーティング等で時折、高齢者虐待防止についての勉強会を開き、職員に理解してもらえるよう学ぶ機会を設けている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を使っている家人さんは居ないが、以前まで2名いた。よって、現在はそれに伴う勉強会は開催していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に面接やホーム見学を行いながら十分な説明を行い、入居予定者や家族が理解していただいたうえで契約を行っている。又、解約に関しても入居者や家族に相談し納得した上でやっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見や不満、苦情の訴え等に日頃から職員が耳を傾け、その都度申し送りやミーティング等で話し合い検討をしている。又、ご家族の方の来所時や行事等に話をしたりしながら、話しやすい環境作りをしており、要望や意見を聞いている。	入居者の意見は日頃の会話から聞き出しているし、家族とは面会時や年4回の催物時に話を聞き出す努力をしている。また大きな催物の時はアンケート用紙もつけ意見を頂く等、参加出来ない家族に対しても気配りしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の個々の意見を大切にしていけるよう機会を設けている。又、他の職員の意見も共有していけるようミーティング等を活用し話し合いを行っている。	毎月のケア会議の他、同一建物内の三事業所合同の全体会議を設けている。できるだけ上司から声を掛ける等、職員が思いや気持を話しやすい環境作りをしている。また年に2回、職員との個別面談もしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員に年1回7月に自己評価を行い、1月には面談をし契約の更新を行っている。又、H23年から奨励賞を行い、総括からの評価や職員からの評価によって日々のケアのモチベーションを高めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々にあった研修に参加できる機会を作っている。又、ミーティング等で勉強会を定期的に行い、職員のステップアップとなるような教育を取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームとの相互訪問や研修を行い、交流する機会を作り、様々な意見を取り入れられる機会を設け、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初に面談等を行い、本人が困っていることや不安なこと等を聞く機会を設け、受け止めていけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居してから1カ月以内は頻繁に家人さんの状況を伝えていけるよう努め、家族からの要望・相談があれば、その都度時間をとり対応し、話しやすい環境を築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人・家族の方の状況を把握し、今、当事者にとって必要とされる支援を考え、ホーム外の社会(地域)資源も活用したサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	外にある畑の野菜や隣接している竹林の筍等を季節ごとに家人さんと一緒に収穫したり、日頃から洗濯物をたたんだり、お米研ぎ、洗い物等を家人さんで行える時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に本人の生活歴や知る限りの本人の思い等を情報収集しつつ、又、家族の意向も踏まえながら本人にとって住み良い環境が作れるように、家族と共に本人を支えていける関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染み(思い出)のある場所・地域に、職員と外出したりして関係継続していけるように努めている。又、馴染みのある近隣の方や知人の方が面会に来て下さる。	利用者の近所に住んでいたという人が年に何回か尋ねて来てくれるし、利用者が大切に感じている実家や地域の昔からのお祭り、お墓参り、ケーキのお店等、職員同伴で出かける支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家人さん同士の関係を考慮し座席配置を決めている。又、レクリエーション等、皆で楽しく過ごせる時間を考えたりしながら、家人さん同士の関わりを深めていけるような環境を作り努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方にも引き続き関係を断ち切らないよう何かあれば支援することを家族の方に伝えている。又、退所後にも家族の方に連絡を取ったり、面会に行ったりもしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分だったらどうかと考え、日頃から関わりを大切にし家人さんの言葉等に耳を傾け、家人さんの意思や要望を尊重していけるケアに努めている。	日頃の係わり合いの中で思いや意向の把握をしているが、ホールでは言いたいことも言えない時もあるので、その時は廊下のソファでの1対1の時間を大切にしている。結果はアセスメントシートに書き、職員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に作成するフェイスシート等を参考にしたり、面会時に家族にも話を伺って少しでも多く本人の情報を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌等の記録に職員皆が日々の様子(発言や行動)を把握していけるよう記入している。又、当日の日誌だけでなく数日前の日誌も閲覧できるようにしてある。口頭での情報共有も大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書更新前に担当職員が「その人を知る」というシートに現在のADLを記入し、それを基にケース会議で皆で話し合っている。又、家族の方にも更新前に意向を伺える機会を設けていけるようにしている。	毎月のケース会議の前に、担当職員が事業所独自のシート「その人を知る」に記入し、それを基に家族意見も入れ話し合い、計画書を作っている。介護計画は、状況に応じて随時変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が家人さんの個別日誌(介護計画書の項目を反映している)を記入し、申し送り等で共有しながら日々のケアにあたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、家人さんの状況の変化や要望に沿えるように、その都度サービス内容の変更を行っている。又、日々の申し送りははじめミーティング等で職員間で話し合い、より良い方法・環境を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽等、地域のボランティアの方が定期的に訪問してくれている。又、毎月、訪問美容院があり、毛染めをしたりと本人らしさを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に、かかりつけ医での受診内容(方向性)を明確にし受診を進めている。	利用者の3分の1は従来からのかかりつけ医であり、診察が必要な時はほとんど職員が付添い送迎しており、他の利用者は協力医に受診している。また、高齢や身体的な負担が大きい家人に関しては毎月1回の往診を受けている。医師には毎日のバイタル結果を見せ、意見をもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良等、いつもと健康状態に変化が見られれば、上の者への報告はもちろんだが、常勤の看護師が他の事業所に居る為、連絡・相談をし見に来て頂いたりしている。又、状況次第では病院受診もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、3日に一度は面会に行き状況の把握を努めていると共に、主治医や看護師とコミュニケーションを取り病院と連絡をしつつ、今後のことを相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、家族と重度化や終末期ケア(看取り)について話し合いを行っている。実際に重度化、終末期ケアに直面した際は、家族・主治医を含め本人・家族の意向を尊重した今後の方針を話し合い明確にしている。	看取りについては契約時に話し合っている。既に6件の看取りを行っており、職員の教育も出来ているが、看取りの時期が近づいたら「緊急ミーティング」を行い、今後の対応について協議し徹底している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングでの勉強会で緊急時について学ぶ機会を設けている。又、勉強会の後で感想文の提出を行い、振り返りの機会も設けている。この度は1月8日に3事業所合同で行ってます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に一回避難訓練を行い、いざという時に備えて、家人さん、職員共に避難できるようデモンストレーションを兼ね体験し適応しているようにしている。	火事中心の避難・消火訓練を夜間想定も含めて行っているが、地震対応については未実施である。	近い将来大規模地震が来ると言われており、万一の場合を想定し、職員があわてないよう必要な訓練をされることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心の配慮というマニュアルを作成し、家人さん一人一人を尊重し接している。又、日頃から職員同士でも羞恥心の配慮を意識し指摘したり、申し送りを定期的に行ったりしている。	利用者各人の人格を尊重し、支援している。特にトイレの声掛けには注意しており、出来るだけ「トイレ」という言葉を使わないで、トイレの近くまで来た時それとなく誘導するように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から家人さんとのコミュニケーションを大切にしながら、思いや訴えが表現しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活ではあるも家人さんのその日の様子(体調や表情等)に十分配慮し、その方に適した生活リズム(ペース等)を大切に過ごしていただけるよう日々のケアにあたっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝だけでなく日頃から身だしなみ(食事後の口周りも含め)に気を付けている。又、月1回の訪問美容院もあり、家人さんの希望に即した髪型にしている。又、夏祭り等の行事の際は化粧もしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	レクとして家人さんとお菓子作りをしたり、毎週日曜日にはニコニコ会食というオリジナルメニュー(家人さんと考えている)を職員と家人さんと一緒に食卓を囲み食べている。又、日頃から盛り付け・下膳等をしていただけるよう働きかけている。	日常は、食材屋から届いた食材で職員が調理しているが、日曜日の昼食は特別で利用者と職員が一緒になって考えたメニューで、お米とぎから後始末まで協力し合っている。普段から利用者もできるだけ手伝って、楽しい食事作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事、食事量のチェックを行っている。特に水分量を気に掛けていかなければならない家人さんに関しては、別紙を作り職員がより意識しているようにしている。又、家人さんの状況に合った食事提供ができるよう見直しも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを促し、介助の必要な家人さんに対しては見守り付き添って介助等を行い、口腔内の清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導が必要な家人さんに関しては、トイレチェック表という用紙を活用し羞恥心に気を付けて声掛けを行ない、家人さん個々の排泄パターンに応じて誘導しトイレでの自然排泄ができるよう心掛けている。	利用者各人の排泄パターンを把握し誘導したり、仕草を感じて促したり、トイレが分からない方には案内したり、トイレでの排泄に努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の家人さんによって漢方のセンナ茶を調整し飲用していただいたり、主治医と相談しながら内服調整も行い、排便コントロールを行っている。又、ある家人さんには少しでも水分をとる事もあり主食をお粥にさせていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2～4日に1回のペースで入浴していただいている。又、希望によってはすぐに入ってもらったり、希望時間を伺って入っていただいたりもしている。	風呂は毎日でも入れるが、2～4日に1回のペースで、入る順番も利用者の希望を聞いて決めている。風呂入り口には「元気の湯」「美人の湯」のノルンがあり、「今日は美人の湯にする？」というように楽しい声かけをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家人さんの個々の状況(夜間不眠・下肢の浮腫・体調不良等)に考慮しながら休息していただいたり、下肢挙上をしていただいたりしている。又、本人が「休みたい」と希望された際も休息していただき、他のスタッフにも口頭で伝えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬介助はリーダーが行っている。服薬の変更や臨時の内服等に関しては申し送りに赤字で記載し口頭での申し送りも行っている。特にリーダーは服薬関係をきちんと理解していけるようリーダー帳を活用し様子等、情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家人さんが主体になり、食器洗いや米研ぎ、玄関掃除、猫の餌やり等、個々が役割を見出して活気のある生活を送っていただけるよう働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出表という別紙があり、個々の家人さんがいつ外出したかを一覧でできるようにしている。日々の外出においては喫茶店等、家人さんの行きたい場所を伺えるようにしている。又、季節に応じて花を見に行ったり初詣にも出掛けている。	周囲は交通が激しく日常的な散歩は困難のため、今は施設内の庭に出ることが多い。普段行けないような遠出する時には家族の手伝いもあり、喫茶店や外食、墓参りの他、季節の花見や木曾三川公園、阿下喜温泉、多度神社への初詣等に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお小遣いに関しては事務所の個人BOXで預かりとなっている。買い物の際に一部の家人さんには支払っていただいたりもしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家人さんが希望された際は、電話をつなげたり、職員から家族の方に連絡したりすることもある。又、家人さん宛ての手紙や年賀状は直接本人にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の天窓から日差しが差し込んだり、ホールの窓も大きい為、外の風景が見やすくなっており季節感を感じられるようになっていいる。又、季節に応じた温度や湿度で過ごしていただけるよう加湿器や冷暖房器具をきちんと使用している。	2つのユニットが東から西に一本の長い廊下でつながっている。廊下の天井は高く天窓になっており、ゆっくりとファンが回っている。壁には遊び心一杯の説明付きの催物の写真が飾ってあり、廊下を歩くだけでも楽しさを感じる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の端にソファーやイスを設置しており、家人さん同士でお話しゆっくり過ごせる環境作りをしている。又、一人になりたい場合は居室で過ごすことができるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家人さんの使い慣れた物や思い出の品物、大切な物(写真やお仏壇等)の持ち込みが可能である。又、お花がお好きな方であれば四季折々で花等を飾ったりされ、その人らしい居室を大切にしている。	居室にはベットと洗面台があり、壁面にはクローゼットがあるので、どの部屋もきれいに片づけられている感じがする。花の好きな方は部屋一杯に花を飾っているし、家族の写真や使い慣れた品々が飾られ、自分の部屋という感じを強く感じる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家人さんが安心かつ安全に過ごせるよう、居室空間はベッドの位置・高さ等を家人さん個々に合わせて考え、タンスにも何処に何が入っているか分かるよう記入をし自立した生活が送れる環境を大切にしている。		